

第1分科会 大規模災害での被災者救援の現状と課題を考える

①劣悪な避難所の現状と改善の方策などの報告 仙台市議 嵯峨サダ子

1、避難所の現状と課題

東日本大震災では、市内全域において、学校や市有施設だけでも最大300の施設が避難所として開設し、1日当りの避難者数は最大で10万を超えている。帰宅困難者が多数出た。

課題として、指定避難所が足りない。主食・水等の備蓄が足りない。市民センターなど指定避難所になっていない施設には食糧等の物資が支給されない。福祉避難所が足りない。障害者やペット同伴の被災者は避難所に入れず、車中生活になった。被災者のプライバシーが守れない。女性の視点での避難所運営がなされないなど、様々な問題・課題が指摘された。

また、避難所の食事内容が地域によって格差が生じ、内陸部は1ヶ月以上もアルファ米とカップラーメンという状態が続いた。

2、避難所の改善に向けた取り組み

日本共産党市議団が行なった「緊急要望」3月14日から18回、市災害対策本部に要望書を提出

3、具体的に改善がなされた点と内容

4、「行革」による職員減らしで、迅速な救援、救助が十分にできなかった。

災害救助法の存在や活用方法も広く職員の周知徹底されていなかった。震災当時、津波被災地を抱える区長だった幹部職員は、「災害時、マンパワーが圧倒的に不足していた」と議会で述べた。住民の生命と財産を守るのが地方自治体の仕事である。震災の記憶と経験、教訓を後世に伝える仕事をうまずたゆまずに継続していくことが重要である。